



農作物の安全・安心と 病害虫防除の技術向上を図るために 防除日誌を必ずつけましょう！

農薬の使用記録として防除日誌を作成しておきますと、食品としての安全を証明する資料（消費者等から農薬の使用履歴を求められた時や農薬問題などが発生した場合に、適正使用の確認や原因究明など）として役立ちます。

さらに、自身がこれまでに行ってきた防除や管理作業を振り返ることで、防除技術の更なる向上を図ることができるなど、より安全で安心、適切な農作物の栽培を推進することができるようになります。

日誌に記帳する重要ポイント

- 防除日誌は**圃場ごとに作成**することとします。いつ、どんな作物に、どの農薬を、どれだけの量や濃度（希釈倍率）で、どのように処理したかなどを下記の記載例を参考に記載します。
また、耐性菌や抵抗性害虫の発生を抑制するため、各薬剤の作用機構分類（FRAC または IRAC コード）を記載しておく、農薬のローテーション防除の目安となります。
- 農薬処理時の**各種病害虫の発生状況**（どのような場所に、どれくらいの発生程度など）や作物の生育、圃場の環境なども、できるだけ詳細に記録しておきます。
さらに、農薬処理後における**防除効果の判定も記録**します。これらを積み重ねて検討することにより、次回の病害虫の発生予測（どの時期に、圃場のどの辺に発生しやすい）や防除計画などの参考になります。

自分で実践できる
内容や様式を工夫
して記録してみま
しょう！

まずは継続さ
せましょう！



できるだけ詳
細に記載する

参考記載例

ほ場ごと記載
しましょう！

防除日誌

（令和〇〇年〇月～令和〇〇年〇〇月まで）

圃場場所 (No.〇)	面積	作物名	播種または定植月日	収穫期間
〇〇地区〇〇番地 (ハウス東側〇棟目)	〇〇a	□□□□□ 品種：〇〇〇	〇月〇日 播種 〇月〇日 定植	〇月〇日～ 〇月〇日

は必須項目
(農薬使用基準)

月日	用途	薬剤名	希釈 倍数	使用量 (10a 当たり)	処理方法	FRAC 又は IRAC コード*	使用目的	処理時またはその前後の 状況などメモ	防除効果等 (○×△)
〇月〇日	殺菌	□□□ フロアブル	2,000 倍	200 ℓ	散布	F:11	〇〇病の防 除	ハウス出入口の手前左側 から発生、直ちに薬剤散布	○：効果高 い
〇月〇日	殺虫	□□□ 粒剤			株元処理	I:4A	〇〇ムシ、 〇〇ムシな ど対策	予察注意報が出たので予 防処理	△：□□ム シの被害が 発生
〇月〇日	除草	□□□ 乳剤			間処理		□□□草が 多いので	圃場の〇〇側左半分が多 発生した	△：□□草 が残る
〇月〇日	殺菌	□□□ 水和剤	800 倍	300 ℓ	散布		〇〇病の防 除	1 週間ほど天候がぐずつ き、株元が変色している	×：効果低 い
〇月〇日	植物 調整	□□□□□	50 倍		散布		着果促進	曇天であったが、着果良好	○：効果高 い
〇月〇日	殺虫殺 菌	□□油剤		20 ℓ	土壌灌注		〇〇センチ ユウ、〇〇 病の防除	一昨年の栽培で多発生。前 作は□□□を栽培。	○：かなり 発生低下

耐性菌や抵抗性害虫の発生
を抑制するため、RACコード
を記載してローテーション散
布を実施する

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。